



# 「伝えるチカラ」特別授業 実践レポート

～「感じて、伝える」心とスキルを育む～

橋本恵子 (ことのはスクエア)  
info@kotosuku.com

# なぜ今、「伝えるチカラ」なのか？

## 溢れる情報と受け身の姿勢

メディアが乱立する現代、子どもたちは膨大な情報の単なる「受信者」になりがちです。



## 「感じて、伝える」人間本来の力

AIと共生する時代だからこそ、相手の心を想像し、自分の言葉で届ける「発信者」としてのメディアリテラシーが不可欠です。



# 言葉のプロが持つ技術を、小学生が夢中になるミッションへ変換



**橋本恵子**

(元テレビ局アナウンサー・記者／キャリアコンサルタント)

## プロの心構えとスキル



「聴く」「話す」「構成する」という放送の基本と本質。

翻訳

ことばチャレンジャーへの挑戦

プロの技術を小学生向けに楽しく実践的なチャレンジへと翻訳。  
「伝える」が「伝わる」に変わる喜びと難しさを体感するプログラムを設計しました。

# コミュニケーションの本質は「言葉のキャッチボール」



## 投げる人

相手をよく見て、知らないと、ボール（ことば）は届きません。



## 受け取る人

投げる人がいても、受け止める人がいないと「ことば」のやりとりは成立しません。

「話す」と「聴く」は、常に表裏一体のアクションです。

# 発達段階に合わせて設計された「3層構造」のカリキュラム

1・2年生  
- 種 -



テーマ：  
ことばとあそぶ

スキル：  
発声と表現

ミッション：  
自分の「好き」を伝える

成果：寡黙な子の  
自己表現の開花

3・4年生  
- 双葉 -



テーマ：  
聴くことでつながる

スキル：  
インタビューと共感

ミッション：  
友だちの「好き」を引き出す

成果：他者を認め合う  
教室環境の醸成

5・6年生  
- 樹木 -



テーマ：  
伝え手になってみる

スキル：  
構成と協働

ミッション：  
60秒動画番組の制作

成果：教科を越えた  
探究的・協働的学び

# 1・2年生：伝わる『声』を作るための3大原則



## Step 1: リラックス

体がカチコチだと声はブロックされます。体操で緊張を解き放ちます。



## Step 2: おなかで支える

喉からではなく、おへその下『丹田（たんでん）』から声を出すイメージを持ちます。



## Step 3: やじるしを向ける

届けたい相手をしっかり見て、相手の心へ向かう『やじるし』を想像して声を放ちます。

# 「エネルギーを込める」合言葉が、自己表現の扉を開いた



「発表することを普段恥ずかしがらない児童が、気持ちを込めることを真剣に考えるあまりに涙したり、普段は寡黙な子が大きな声で気持ちを伝えたりと、普段見られない児童の姿を見ることができ大変驚きました。」

1年担任

伝えたい相手を思いながら話すことを意識していたため、伝える内容にも心がこもっていました。  
『お母さんの味噌汁が好き』→『心が温まるからです』と、理由までしっかり表現できていました。

教頭

1時間の授業後も、「エネルギーを込める」を合言葉にクラスでの発表が続いています。

## 3・4年生：①「聞く」から「聴く」へのバージョンUP

「伝える」を「伝わる」にするために、最も大事なものは「受け手」の存在です。

### 聞き上手のアクション

- ✓ 1. 「いいね」は体で示す
- ✓ 2. 相手に心を向ける
- ✓ 3. 安心感を与える空間を作る



# プロの「聴く」技術が、他者を認める温かい教室空間を創り出す

友だちをインタビューし、見つけた「好き」を木に実らせる探究型授業。



## 教員たちからの驚きの声

- ・教室全体が明るくなり、他者のよさを見つけ、認めるという雰囲気により生まれました。(4年担任)
- ・国語や総合で発表するときに『教えてもらった技術を使おう』と子供たちから自然に声が上がっています。(3年担任)

# 5・6年生：情報の「受け手」から「伝え手」への視点シフト

## 60秒動画番組制作を通じたメディアリテラシーの育成



From: 普段の受け手



To: 画面の反対側から捉える伝え手

### 1. 台本の構成

オープニング・本編・エンディングの枠組みで「一番伝えたいこと」を整理する。

### 2. 役割分担

ディレクター、レポーター、カメラマン、編集といったプロの現場と同じチーム体制を敷く。

### 3. 撮影と協働

誰に何を伝えたいかを常に意識し、チームで試行錯誤しながら一つの番組を創り上げる。



# 教科の枠を飛び越えた、圧倒的な「探究的・協働的学び」

「情報モラル」

「アポの取り方」



「自分の役割を  
果たす責任感」

「伝えるための  
構成力」

「仲間と  
協働する力」

動画制作が生み出した  
多角的な学びの連鎖

「こんなことができるんだという驚きとうれしい気持ち率が率直な感想です。達成感があり、保護者も動画を通して子供の成長を感じてくれていました。」

6年担任

# 「心が乗った言葉の力」 教師たちが受け取った最も大きな遺産

『AIには心がない』『言葉に気持ちを込めて話す』という言葉が心に残りました。子供たちが自分が扱う言葉を大切にして生活してほしいと思いますし、私たち教師自身も自らの発する言葉をこれまで以上に大切にしていきたいと思いました。

主幹教諭

橋本様の子どもたちへの思いがこもった言葉のひとつひとつが印象的でした。心が乗った言葉っていいなあと思います。全ての学年の西っ子に蒔いていただいた表現の種は本校の財産になりました。

校長

# 「ことば」は、人と人をつなぐ魔法



「伝えるチカラ」は、単なるプレゼンテーションの技術ではありません。話す」と「聴く」を通じて、家族、先生、そして友だちとの豊かな関係性を築くための、人間にとって最も大切なツールです。

蒔かれた「表現の種」は、  
これからも育ち続けます。  
めざせ、ことばチャレンジャー！